

かとおういあいひ

## 嘉遯翁遺愛碑

指定種別：市指定文化財

指定日：昭和53年11月28日

所在地：釜石市唐丹町字大曾根

制作年：天保7(1836)年

寸法：高さ152cm 上部幅58cm

下部幅69cm 奥行20cm

銘文：下記参照



嘉遯翁遺愛碑は、隠居後嘉遯と号した葛西昌丕が没して、三月後の天保7(1836)年5月に、昌丕の姪安基と門弟の葛西徳義、角地信近などが、昌丕の偉業をたたえ、その概要を儒者久子翠峰に文および書を依頼し建てたものです。

昌丕の墓碑によると、もともとこの碑は白崎にある隠居屋敷である「奇巖亭」に建てられていました。碑文には「奇巖亭」の様子や昌丕の学問の領域、人となりなどが記されています。

昌丕は測量之碑のほか、天照御祖神社の由来を刻んだ常龍山碑や扁額に歌を残し、学問領域が広がっただけでなく、西村屋の屋号で代々吉右衛門を名乗る唐丹村では有力な家であったことから、天明の飢饉に際し、村民救済事業として新道峠の開削を行い、庚申塔を建立しています。



山水之清秀雖就於造化苟不得其人則湮滅泯漸蕪蕪埋歿  
為狐兔所有而其勝無展千也猶士之未遇知己弗得尽  
其才能殆与奴隸為伍者是可歎也嘉遯老人以魁偉倜  
儻之質抱有為之材而其志不遂於是除荒穢荆莽翳相  
攸於此巖之並峙者為門石之坡而坦者為礎仰擊俯海築  
堂於此上怪松蓋屋寒流繞擔松風之与泉声常為誦誦之助  
焉環堂諸山翠心海面漁艇來去或然在翠微奕斯堂之奇觀也  
翁廣聞強記研究天文地理之学老嗜臨池之枝一日十紙積十有餘  
年則其枝之熟可概知也如論天象精覈詳密雖專門名家  
不亦能措一辭今茲二月六日罹病而歿於是義姪安基学  
字門人葛西徳義角地信近等懼其遺愛之属荒廢微余記其事  
謀建碑堂基之上方余翁為忘年之友不可得辭矣而山  
水之清秀因翁展其奇翁亦因山水留其偉二者並存而不  
朽則諸子之拳不亦為無愧於是乎採筆  
天保丙申夏五月 源永豊景叔父撰併書 雲峯 刻